

段ボール箱で「堆肥づくり」

地球温暖化防止願って取り組み

NPO法人とよなか市環境会議アシエンタ21・花と緑のネットワーク（高野邦子代表、40人）は先月28日、豊中市庄内幸町1丁目の庄内幸センターで、段ボール箱を使った「堆肥づくり講習会」を開き、庄内地区で花いっぱい運動に取り組む市民らから、段ボールと米ぬか、豊中生まれの堆肥「豊肥（とよっぴー）」などを

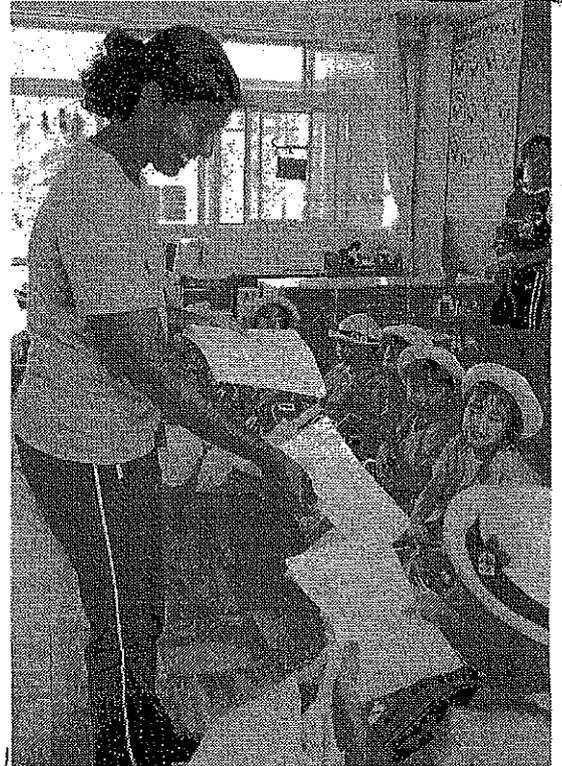


熱心に説明を聞く参加者たち
（写真は豊中市広報課提供）

を使い、簡単にできる堆肥作りを学んだ。参加した坂野文明さん（64歳）は「地域の中で一人でも多く堆肥作りに参加して、地球温暖化防止に一役かえれば」と話していた。NPO法人とよなか市環境会議アシエンタ21は、1996年（平8）に発足した市民・事業者・行政でつくる「とよなか市民環境会議」が、同会議が中心となって策定した「豊中アシエンタ21（地球環境を守る豊中市民行動計画）」を具体的に推進していくための市民団体として、2002年（平14）に結成。翌年NPO法人化した。NPO法人とよなか市民環境会議のプロジェクト活動のうち、有機性資源を活用し地域から資源循環の仕組みをつくる活動を進めるのが「花と緑のネットワーク」。家庭の台所から出る生ごみを燃やさないで資源として再利用しようと、段ボール堆肥作りなどを通して、食の循環や花いっぱい運動、毎月1回の堆肥作り講習会・相談会、給食の調理くずや剪定枝などから作った豊中生まれの堆肥「豊肥（とよっぴー）」の頒布活用事業を展開している。

今回の講習会は、中央幹線景観水路（曾根雨町）庄内幸町1丁目の庄内地区で花いっぱい運動を進めている坂野さんら「地域ぐるみで堆肥作り」に取り組み、地球温暖化防止につなげたり、花壇などに使うための堆肥を自分たちで作ったりしたいという願いと、花と緑のネットワークの「地域から行動を進める」という思いが合致し実現した。

段ボール堆肥は、段ボールの中に新聞紙をひき、米ぬかと豊肥、醗酵促進剤を入れてよくかき混ぜ、その中に1日分の生ごみを毎日投入しながら醗酵させると、1か月半程度で堆肥になる。この日は、午後1時30分から地球環境の現状について話がいった後、堆肥作り講習会がスタート。講師が段ボールに米ぬかや醗酵促進剤などの材料を順番に入れながら手順を説明、参加者は、生ごみの量や入れてはいけないものなど注意点をメモにとりながら熱心に聞いていた。



すっかかり人気者

市内の幼稚園で教育実習

豊中市 スリランカの女性教師が、豊中市東豊中町五丁目の市立ゆたか幼稚園（森崎京子園長）で教育実習に取り組んでおり、身ぶり手ぶりを交えた話し方や母国の伝統ダンスを交えた姿が園児らの人気を呼んでいる。

教育実習に取り組むのは、デイリニ・チャンドラ

スリランカの女性教師、セナさん（24）。同国ボルガハベラ市の神戸ランカ幼稚園で教員生活三年目を迎える。府の海外技術研修員受け入れ事業の一環で八月に来日。日本語短期研修などを経て、九月二十五日から本格的に同幼稚園での実習に入った。

デイリニさんは年齢別園児の明るい笑顔に元氣付けられることが多いと

（豊野由磨）

日本の幼稚園で教育実習に取り組むスリランカの女性教師

「デイリニさん。幼稚園教育の具体的な指導方法などを学び、スリランカでの取り組みに生かしていきたい」と目を輝かせている。

今後、六日の運動会までは年少組（四歳児）、十日から三十一日まで年長組（五歳児）で実習を積み、四歳児と五歳児の発達の違いや、遊び方・学び方などについて研さんを積む。十一月中旬に帰国予定。